

「2024年度香港中文大学サマースクール派遣参加報告書」

京都大学工学研究科 修士課程1年 原田 真采

①学習成果

まず、中国語の学習についての見解を述べる。留学前の中国語は、初級～中級の間くらいだと評価できる。声調は習得し、簡単な自己紹介ができるレベルである。第二言語で中国語を選択し、2年勉強したが、オンライン授業だったこともありあまり身についた実感はなかった。さらに、現在修士一回で中国語の学習から2年以上経過し、学習したほとんどを忘れてしまった。そのため、リスニングに至っては、基礎的な年齢を聞くような質問も聞き取れない状態だった。

大学では元々、上級・中級1（使用言語：中国語）・中級2（使用言語：英語）・初級の4つのクラスが用意された。私は中級2に参加する予定だった。しかしながら、中級クラスの人数不足からクラスの編成が行われ、中国語を中国語で学ぶクラスに参加することになった。初日の授業では、先生の言っていることが全く理解できなかった。しかし、他のクラスメイトは現在中国語を学習中の学部1,2回生が多く、先生の言っている内容が概ね理解できているように見えた。彼らは先生や他のクラスメイトのジョークで笑っていた。私は何を言っているのか分からず、これがあと3週間続くと思うと気が滅入った。私は英語学習の短期留学も学部時代に経験したが、ここまで言語を理解できなかった訳ではないので、尚のことこの状況に絶望した。先生はランダムに生徒に質問をする授業形式をとっていた。生徒は先生の質問を一回で聞き取り、中国語で答えていた。私はひたすらに、私に質問しないでくれと心の中で願っていた。

大学の授業は午前のクラスと午後のクラスがそれぞれ2時間半で行われた。午前は文法中心、午後はリスニング・スピーキングに特化した授業で、授業上内容は午前・午後で対応があった。午前でインプットした内容を午後アウトプットでき、私の中国語の能力は急激に向上した。

2週目から徐々に先生の話が聞き取れるようになった。先生からの質問にスムーズに答えられるようになり、他の生徒と同様に先生のジョークで笑えるようになった。それが嬉しくて、先生の話に注意深く耳を傾け、先生の話をもっと理解することに努めた。2週目の後半からは、分からない文法や理解できなかった事象を、先生に中国語で質問できるようになった。先生の中国語での返答も理解できて、目に見えた中国語能力の向上が非常に嬉しかった。

3週間目では、ショッピングモールで中国人観光客が話す普通語を少しだけ理解できるようになった。

香港留学で最も嬉しかった瞬間がある。私はこのような報告書や何かしら文章を書く時、これを英語ではどう言えるかを無意識に考える癖がある。例えば、この文章の書き出しである「まず、」を書くと、無意識に「First of all,」と変換している。それが、英語ではなく先に中国語を思い浮かべるようになったのだ。頭の中で、中国語の「首先」が先に出てきた。この瞬間、私は新しい言語の習得を実感した。

留学前は全く理解できず習得不可能だと思っていた中国語を、わずか3週間で、もしかしたら習得できるかもしれないと思うレベルまで向上させられた。これは私にとって良い成功体験となり、それと同時にこれを叶えられるのは留学しかないと感じた。

②海外での経験③プログラム内容

留学中は、中国語の学習と日本人以外の留学生との異文化交流に重点を置いて行動した。プログラムでは平日は授業があり、休日は初日の日曜と2週目の土曜日に大学が留学生全員参加のツアーを企画してくれた。このツアーでは、観光ガイドの方と香港中文大学のボランティアの学生と香港の観光地を回るというものだった。2週目の土曜日には、自分たちでは絶対に行かないような香港の村に連れて行っていただ

き、香港の新たな一面を見ることができた。また何よりこのツアーの中で、中国語を学ぶ様々な国の人たちと交流でき新しい友達ができた。さらに、日本語も同時に学んでいる留学生が数名いて、彼らと英語・日本語の言語交換を行ったり、時々授業で学習した中国語を使って会話をすることが非常に楽しかった。

しかしながら、この留学では大変な思いもした。1週目で食べたうどんのスープが良くなかったのか、油が良くなかったのか、食あたりでお腹を壊してしまった。日本から薬を持ってきておらず、また香港の薬を飲むことに抵抗があり、自然治癒に努めたら完治まで約2週間ほどかかってしまった。留学3週間のうち、2週間体調が優れなかった。今まで海外で体調を崩したことがなかったので薬を持っていくことなんて頭に無かったが、これからは万一来るに備えて常に持っておくべきだと学んだ。

④進路への影響

本留学を通して、中国語学習にさらに興味を持つようになった。そして、3週間でもこれだけできるようになるという経験から、習得不可と思っていた中国語が、勉強を続ければ中国語でコミュニケーションをとることができる日が来るかもしれないという希望をもった。私の大学では春休みにも中国本土の大学への短期留学プログラムがあったはずなので、参加を考えている。